

厚生文教委員会報告書

令和7年3月7日

備前市議会議長 西 上 徳 一 殿

委員長 中 西 裕 康

令和7年3月7日に委員会を開催し、次のとおり調査研究したので議事録を添えて報告する。

記

<所管事務調査>

- ALTについて
- 香登認定こども園の移設について
- 子供たちの運動時間について

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
所管事務調査	2
閉会	19

厚生文教委員会記録

招 集 日 時	令和7年3月7日（金）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会	～	午前11時08分
場所・形態	委員会室	会期中（第1回定例会）の開催		
出 席 委 員	委員長	中西裕康	副委員長	青山孝樹
	委員	土器 豊		守井秀龍
		立川 茂		藪内 靖
		奥道光人		草加忠弘
欠 席 委 員		なし		
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列 席 者 等	議長	西上徳一		
傍 聴 者	議員	なし		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	あり		
説 明 員	総合教育部長兼 幼小中高一体整備室長	畑下昌代	教育総務課長	杉田和也
	小中一貫教育課長	谷口健一	幼児教育課長	文田栄美
審 査 記 録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日は、教育委員会関係の報告事項、所管事務調査を行います。

また、午後1時30分より備前市立日生中学校へ視察に伺いますので、委員会閉会后、議会ハイエースに御乗車ください。

それでは議事に入ります。

所管事務調査に先立ち、教育委員会からの報告事項をお受けいたします。

***** 報告事項 *****

事前に報告事項がある旨連絡を受けておりませんが、何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、以上で報告事項を終わります。

***** 所管事務調査 *****

次に、所管事務調査を行います。

委員長より、ALTについて本日の所管事務調査をすることを通知しております。

皆さんのほうから何かございましたら。

○立川委員 こども園でどのようなことをしているのか、アシスタントでしょうから、イメージがつかないんで、その辺具体的な御説明いただけたらありがたい。

○文田幼児教育課長 こども園でのALTですけれども、イングリッシュタイムという時間を持ちまして、15分、長くても30分ぐらいそういった時間を持って英語の勉強というか、歌ったり踊ったり、時にはカードで、絵で示したりとかしながらそういった時間を過ごしています。

生活の中で、一緒に生活することで英語が耳から入って身につくというところもありますので、一緒に行事をしたりとか、折り紙を折ったりとか、そういった普通の生活の中で英語を身につけるところを目標にしています。

○立川委員 日常生活の中にといいことで今イメージをしたけど、幅が広いと思うけど、例えばゼロ歳児の子に英語だけ聞かせておく、それもいいでしょうけど、じゃあ6歳児の方にはもう園任せということですか。ある程度指針は出しておられるんですか。

○文田幼児教育課長 教育政策課に英語教育グループの担当がおりますので、そちらのほうで研修を行ったりとか、幼児教育向けの英語の教育についての研修なども行って、どの園でも同じような対応ができる体制にはしております。計画的なところも年度の当初につくっております、日々会計年度の職員ですので、報告なども受けておりますので、内容を確認しております。

○立川委員 本当にゼロ歳児の子に、昔はやりましたね、聞くだけのラーニングとか、3歳児ではおっしゃるように歌ったり、踊ったりということも可能でしょうけど、そういった指針は今お

っしやったように英語グループが主体的に各園にこうやりませんかという伝達をしてるということでもよろしいですか。

○文田幼児教育課長 そちらのほうで全体統一したものを準備しております。ゼロ歳児とかは歌ったり、踊ったりは難しいと思うんですけども、園の中で例えば英語の絵本を飾ってあったりとか、壁面にそうした絵柄を貼り付けたり、英語のもので表示したりとか、そういった工夫もされていますので、自然な生活の中で英語に触れるというところを大切にしています。

○立川委員 今おっしやったように職員は会計年度任用職員とのお話があり、当然そうだろうと思うけど、その継続性というか、今おっしやったスタンスでやりましょというのが職員が会計年度で替わられたりしたら、その辺の対応はどうお考えになってらっしゃるんでしょうか。

○畑下総合教育部長 会計年度でございますが、こういった形は継続してやっていけるようにやってまいりたいと思います。

○立川委員 それ気になって、例えば先生が替われば多少変わるのかなと。学校なんかでもそうでしょうけど、変わってきますので、そういった生活の中での英語、語学と言いながら慣れるのが一番だと思いますので、そういった継続性のある方針で臨んでいただけたらと思います。

○青山副委員長 ふだんの園内あるいは小学校、中学校内でのALTとのコミュニケーション、担任なり英語教員なり、即座に取れるようなコミュニケーションはなされてるんでしょうか。どういう方法でやられているのか。

○谷口小中一貫教育課長 小・中学校の話になりますが、授業中はもちろんですけど、授業外でも自然に日常的な触れ合いの中で子供たちがALTの先生と関わりを持つということが自然にできているのかなというところが一つ。例えば給食時とか昼休みとか、そういったときにALTの先生がテレビ放送とかで少し英語になれ親しむようなプログラムを放送して下さったりといったことも工夫されています。などで日常的な触れ合い、それから休み時間の活用といったあたりがとても自然になじむような形で学校現場には入ってくれているのかなと思っています。

○青山副委員長 教員、英語のALTが1人でやるという場面もあると思うけど、授業についていたり、あるいは一人一人でやることについても何でもありというんじゃないんじゃないかと思いますし、先日も一般質問でしたけど、例えば生徒の支援員制度の特徴を伝えたり、あるいはこの授業ではこういうことをやってほしいということを細かく伝えることも必要なんだということをおっしやってました。英語のできる教員であったり、あるいは日本語ができるALTじゃないとなかなかそういうところが伝わらないということをお聞きしたけど、そういうところの配慮はどのようになされとんでしょう。

○谷口小中一貫教育課長 授業につきましては、小学校の場合主に英語の専科教員という者がおります。英語の教員免許を持った者が授業を受け持つということになっております。基本的には、日本人の英語専科の教員が主になって授業を進めます。ALTは、あくまでもアシスタント、助手という形で授業には参加していただいております。

授業の事前、事後についても、英語の専科教員を中心に授業の打合せ、それから授業を行った後の評価であったり、振り返り、次の時間どうしていかうかという方向性を確かめたりといったあたり、時間はとても限られてはいるんですが、限られた時間の中で打合せ等しっかり行うようにコミュニケーションを取っておるというところでございます。

それから、英語専科以外の教員との触れ合いですけど、なかなか時間の確保が難しい面もあるんですけど、学校によってはALTの先生を囲んで研修といいますか、コミュニケーションを取る機会を意図的に設けたりとかして、少しでもALTの先生が一職員として職員室の中にもおっていただける形を取りながら、日常の指導にもつなげていくようなことに努めているところがございます。

○青山副委員長 去年は、25名それぞれに配置するところが13名ということで、足りないところは兼務でやられているということもお聞きしましたし、私のお聞きした小学校では英語専門の先生が3校を受け持っているということで、その先生がそれぞれの学校で行うところへ出向いていってということもされてるようですが、例えば1校に1人の専任の英語の先生はおられる状況でしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 小学校の英語の専科教員という者が、国や県の加配教員となっております。その加配教員が受け持つ授業のこま数とか、ある程度制限のある中での配置ということにするような内容となっております。それゆえに、兼務をお願いしているという事情があります。ですので、3校を兼務してくださってる先生、4校を兼務してくださってる先生おられます。あとは非常勤の先生、非常勤講師の先生が受け持つというケースもございます。それぞれの学校とか、人材とマッチングをさせながら配置に努めているというところがございます。

○青山副委員長 今回の議題にも上げられている各校1学年に1人ということとも関係するかもしれないけど、十分日頃のコミュニケーションが取れて、なおかつ効果のある指導をしていただける体制づくりが大事と思うんで、現況をお聞きしたけど、各校かなり苦勞されてることもお聞きします。そういうことは教育委員会に伝わっているといいですか、日頃学校との連絡の中でそういう問題点が出てないですか。

○谷口小中一貫教育課長 なるべく我々も学校現場とのコミュニケーションを図りながら、できることを考えていっているところがございます。なるべく現状の把握に努めながら、今後の体制もまたどういう形がいいかなというところは考えてまいりたいと思います。

○藪内委員 現実4月1日から始まるわけですが、現状の把握も把握ですけど、具体的に前お聞きしたところ85名が可能なのかどうか。可能になった場合にさっきこども園のことは、様子はお聞きしましたが、小・中学校の場合も具体的な絵が浮かばないですね。どういう生活をお供たちもし、そしてまたALTの方も1日どれぐらい、週どれぐらい、どういう働き方されるんでしょうか。絵が浮かぶような感じで御説明いただけたらと。

○中西委員長 このALTは所管はどこになるんですか。

○畑下総合教育部長 教育政策課になりますが、今日課長は体調不良のため不在なので、教育総務課長と部長で答えさせていただきます。

○文田幼児教育課長 こども園では1園に1人ずつなので、10人1人ずつ1日1人を園に配置する予定になっております。昨年度は委託で行っておりまして、そのときも1日ALTが園で過ごす形でした。繰り返しなるんですけど、生活の中で英語を身につけるといところが目的ですので、保育教諭ではないので、保育に当たるということはできませんけれども、一緒に御飯を食べたり、園庭で遊んだりだったり、そういったところで関わっていて英語を身につけるといことになってくると思います。

○谷口小中一貫教育課長 外国語の授業でありましたら、各学年に1名ずつのALTの配置となった場合、校内の全員のALTの先生がその1時間の授業に集まっていいただいて、例えばグループごとに専任のALTの先生に見ていただく形を整えるってということが考えられるかと思えます。それによって、今だったら1人のALTの先生、それからもう一人の日本人の教員が子供と英語で関わる時間というところがまだまだ限られているというところがかなり充実が図れるのかなということを思っております。

それから、各学年に1人ずつということになりましたら、日常的にALTの先生がおられるということは、子供たちもより構えることなく自然体でコミュニケーションを取っていく中で、英会話のこともそうですし、国際的な感覚といいますか、なかなか言葉で表現するのは難しいところもあるんですけど、そういうところも子供たちが日常生活の中で味わったり、感じたりということが出来るのかなと思っております。

それから、環境面でいきますと、今も学校で例えば掲示板とかにも英語の表記のあるものが飾られていたりとか、階段の上がりかまちというんですか、ああいうところにも掲示があったり、それが今度は各教室にもそういう掲示物が充実してより英語が近くなる、そういう環境づくりにも寄与していただけるんじゃないかということを思っております。

○藪内委員 小・中で英語の時間がどれくらいあって、先ほどから出る英語の専科教員とかALTの方が週にどれくらい教室でというか、いろんな日常の場面でもでしょうが、決まってるような決まってないような。

英語に慣れるということだったら今使い方が違うかたも分かんないけど、黒板、新しいやつありますよね。ああいうので英語のシャワーでどんどん流したりとか対応できることもあるでしょうしね。ALTを各学年1人ということは実質1クラス1人ですよ。もっとふだんから常に教室にいる感じでみたいなことはオーバーワークというか、無理でしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 日常的にというのが外国語の授業だけ来るのではなくて、ほかの時間帯も一緒に授業に入られる、ALTの先生がというところも想定しております。ですので、休み時間も常に教室におられるということも考えられるでしょうし、そういう中で本当に遊びを通じてとか、ちょっとしたコミュニケーションを通じてっていうところで自然と英会話ができる場面が

今よりかなり増えるのかなということを思っております。

○藪内委員 そのように常におられるのであれば何でも聞きたいときに時間が空くじゃなく、すぐに聞けるということは非常にいいことなんで、それが本当に実現するのであればとてもいいことだと思います。

そういうことを重視するのであれば、私の勝手な考えですが、もっとこども園のほうに集中させるとかして、とにかく最近よく言われる英語耳とか言われますけれど、そういうところから入っていくのであれば小・中よりもこども園、もう本当小っちゃいときから英語に特化していく町とするのであれば、でもそれはいいのかどうかわかりませんが、それを目指すのであればこども園のもっと小っちゃいときからもう耳にがんがん入れてもらって、多分小っちゃい子にとってはリンゴと教えてもらうのもアップルから、発音はできないですけど、そんなときから自然に入れるように、その辺どうでしょうか。

○文田幼児教育課長 こども園では学校のように机に座って授業とかではないので、園の中の活動とか、生活の中で英語を身につけて、自然にいけたらいいなと思っています。各園1人ずつということで、ゼロ歳から5歳児まであるんですけれども、全体として英語の教育というか、そういったところで触れることができるのではないかと考えてます。園も地域によって大きな園とか小さな園もありますので、ALTの配置についてはひょっとしたら大きな園には2人なり、3人なり、必要だったりする場合もあるかもしれないですけども、そういったところも学校のALTの配置と調整しながらできるのではないかと思います。

○藪内委員 よく私言うけど、そこもバランスで、前から言いますように例えば備前中と三石中や日生中みたいに少ないところと、同じ1人と。絶対バランスおかしいじゃないですか。そういうのも確保できた場合によく考えていただいてやってほしいと思います。

○奥道委員 85名の方にALTで来ていただくということがすごいなというのが私の実は本当の実感でして、この人たちの日常生活どうすのかなという。例えばトラブルに巻き込まれないとは限らんじゃないですか。そういったときにアドバイザーなりなんなりがいらっしゃるのかなということが一つ疑問であったが、どうですか。

○畑下総合教育部長 そういう部分につきましては、今後生活支援とか、そういう対策についてのものを委託する予定でありますので、そういったところでも対応していただく形になります。

○奥道委員 今回これだけの方をお招きできるということにすごいなというか、私私学畑でしたから1,000人の学校で3人しかいないALTを取り合いっこするということは知ってます。そういう中で、これだけの数の方が本当に来られたらすごいな、でも反面先ほど申し上げたようなことがあるんだろうなと。

今年取りあえずお迎えする、継続的にも多分やっていただけるんでしょうけど、具体的には4月からスタートといううちに各学校配置、具体的に本当になる、稼働を始めるというたらいいんですか。それも4月からと理解しとけばいいですか。それとも、夏休み明けてからとか、まだ分

かりませんか。

○**畑下総合教育部長** 一応、できるようには準備はしてるんですが、4月1日からすぐということには、1日からは採用するんですが、それまでにこちらのほうで幾らか研修をして、それから学校配置っていう形にしていこうと思ってます。

○**藪内委員** 今、奥道委員も聞かれましたけれど、今日3月7日でこれ決まるのがもう少し先。そっから4月1日の採用、現実問題どうでしょうか。かなりタイトですね。

○**畑下総合教育部長** 一応、今協定しているコルドバからあっせんしていただく形で準備は進めてまいりますので、間に合うように進めてまいりたいと思います。

○**藪内委員** 多分、もう準備は実際やっとなないと無理だと思いますけれど、85人全員か、それとも何人ぐらいが現実問題今の段階で準備というか、もう大体の話がつくじゃないですけど。実際それぐらいじゃないとどう考えても間に合わないと思います。

○**畑下総合教育部長** 今のところ、各学年1名なので、75人一応集めていただくようお願いはしております。

○**藪内委員** お願いはしてるけど、普通ならばもっと前に決まってて、もう日本へ来る準備をしておかないと駄目ですよ。人がこちらで生活するわけですから、心の準備とかいろんな準備があると思う。本当は既に85人確保できてますとか、あともう契約だけですみたいところなのか、いやいやまだお願いして今どんどん面接なりなんなりをしている段階なのかを教えてください。

○**畑下総合教育部長** こちらのほうでは間に合うように準備は進めていっております。

○**青山副委員長** 75人と言われたけど、こども園は現在13名おられますけど、その13名が園へ回るということでよろしいですか。

○**畑下総合教育部長** 現在の13名の方が園ではなくて、その13名の方も一緒に小・中、こども園とで配置されますから、今されてる13名の方が全部園へということではございません。

○**青山副委員長** 全部で85名ということになりますよね、園を入れると。ということは、72名新たに採用するということになるんですか。

○**畑下総合教育部長** 今後面接等こちらのほうで行いまして、調整していくことだと思います。

一応、こちらに必要な人数をお願いはしているんですが、その確保につきましてはまたこちらで決めれるということなので。もし75名来られても、こちらで13名おられても、その分の配置はこちらで行っていくということです。

○**青山副委員長** 配置については、13名がこども園に回るといふんじゃないということは理解しましたが、75名を採るといふことになると全部で88名になりますけど、そのような採用に来年度はなるんですか。

○**畑下総合教育部長** 今のところは75名ほどお願いしているという状態ですけど、これからどういう形で採用していくかはこちらで決めれることなので、その対応についてはまたこちらで

検討する内容でございます。

○青山副委員長 予算が6億4,000円幾ら出てる。75名を採用する、現在13名おられるんで、全部で88名になる。今後どのようになるのか。

○畑下総合教育部長 一応、予算上ではその分の確保はありますので、また全校配置の中でまた例えば先ほど言った予算配分でここにはもう少し要るなというところにつけたりとか、そういう配置の仕方になると思います。

○青山副委員長 ということは88名体制で来年度は行うということで理解すればいいですか。

○畑下総合教育部長 あくまでも予算はそれだけは確保してあるということなので、来年の体制どういう形になるかというのは今後こちらで決めていくと思います。

○青山副委員長 予算を確保されるイコール計画的な人員配置等活用にならないとおかしいと思う。ですから、そこのところをしっかりと説明していただけるようお願いしたい。

予算決算審査委員会等ありますんで、説明をできるようにお願いしたいと思います。

○草加委員 75名お願いされてるという返答の期限とかあるんですか。いつまでに返事をくださいっていうか。

○畑下総合教育部長 返答の期限はございませんが、こちらで相手方があっせんしてくださる方で事務を順次進めていくという形にしております。

○草加委員 ということは、向こうから75名決まった段階で名簿のようなものが送られてくると。そこまで待つしかないということでしょうか。

○畑下総合教育部長 準備を進めていく上でやり取りはしてあって、そういう形で今こういうことで進めていきますというやり取りはしております。

○守井委員 要望なり考え方なりをお願いしたいと思います。

まず1点は、ALT事業、そもそもの目標、そしてその目標がどのようなことで達成されているかという評価をぜひ、それは年度年度によって多少変わってくると思いますけれども、ALT事業の当初の目的とその評価がどのようになっておるかをぜひ検証していただきたいということで、だんだんその事業が充実に進むように、何となくやってるんじゃなくてそれをちゃんと評価できるものを考えてもらいたいと。

例えばの話ですけど、子供たちの英語力はこんだけのことがこのぐらい上がりましたよとか、どういうコンセンサスをするかというんはいろんな方法が、アンケートを取るとか、あるいはテストをやるとか、いろいろあるかと思うけれども、ALT事業に対する評価を何か知恵を使って評価していくということをぜひ考えていただきたいというのが1点であります。

もう一点は、13人、今おられる方の中でも、人にはいろいろ差異がありまして、得意な部門、得意でない部門、いろいろあるかと思うけど、このALT事業に対してのその人となりの評価といいますか、この人はこのALT事業に対して最もふさわしい人だなというような感じがある、あるいはこの人はALT事業には難しいなという評価、その13人なら13人の中でもそれ

その人となりの評価はしてあげなければいけないんじゃないかなと。できないから駄目という意味じゃなしに、その人に対してはこういう能力がありますよというあたりのところをぜひ評価して、人数がまた増えるということになれば余計にその辺のあたりの評価をそれぞれなりにぜひやっていただきたいと思っています。そういうことによってこのALT事業を充実したものにしていくと。せっかくお金を使うんで、意義のあるものにやっていただきたいと思います。

それともう一つは、このALT事業にはたくさんの人がこの地域に関わることになるということと、もし全員備前市に住んでいただければその人数分だけは人が増えるということになりますので、ぜひ地域との、活性化とのつながりという面も含めて考えていただけることであればいいのかなということで、要望なり、考え方なりですが、何か御意見ございましたらお聞きしたいと思います。

○畑下総合教育部長 目標と評価ということですけど、一般質問でもお答えしたとおり、許可の一つで英検とか試していただいて、そういうところでいろいろどういうふうにできているかとかがもう一つの指標だと思いますので、そういうことを使ったりしていければと思います。

それから、今までのALTの評価ですけど、これにつきましては毎年英語教育の中でそういう先生方の評価っていうものも行ってますし、今度入ってくるALTの方々に対しましても、そういう部分についてはきちんと行っていく予定でございます。

それから、地域に関わっていけるんじゃないかということですが、一応各学校区で住んでいただければって思っておりますので、地域にも十分関わっていただけるんじゃないかと思っております。

○立川委員 先ほどお尋ねしたが、先般2月の定例会でALTの配置で14名という数字が出たんですが、西鶴山、大内、香登から始まりましてこども園ですね。小・中高校まで14名の配置ということで公表されとんですけど、人数では13でいいんですね。

○畑下総合教育部長 伊里中学校と片上高校の先生は同じなので、現在、13名です。

○立川委員 ですから、13名で14校配置ということですよ。ダブってますから。教育委員会ではどういう配置を取られておられるんですか。13名ですけど、配置は14校。伊里と片上高校に配置ですよ、お一人。じゃ、14校に配置という考え方でいいんでしょうか。あくまで13名で突っ張られるんですか。どっちですか。

○畑下総合教育部長 配置につきましては、中学校5校は1人ずつおります、5人。そのうち、先ほど言いました伊里中の方が片上高校を1人兼務している状態、小学校は10校のうち2校の兼務の方が4人おります。1校ずつが2人です。

○中西委員長 部長、立川委員が聞いているのは13人で14校の配置体制なんかどうなんかを聞いてもらえると思う。

○畑下総合教育部長 13名で小学校10校、中学校5校、高校1つと、それからこども園を兼務してます。

○立川委員 さきの一般質問で教育委員会が回答しておられるのが、14名でダブリが2校あると。こども園が2名配置ですね、現状。小学校が6名配置。中学校が5名配置。片上高校が1名配置。これ入れると15校になります。ただし、ALTは14名と。14校になりますので、13名でいいんですね。そういう配置の認識でいいでしょうねということです。さっきからいろんな数字が出てますけど、13名で14校配置してますという確認でよろしいですか。

○中西委員長 暫時休憩します。

午前10時15分 休憩

午前10時16分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○畑下総合教育部長 小・中学校、高校で16校あって、その中では11名です。こども園が2人で回しているっていう状態です、現在は。ですから、13名です。

○立川委員 ALTとして配置前の人数が13名ですよ。だから、現在配置してるのは13名ですよ。ただ、該当してるのはこども園、保育園で担当が2名です。小学校が10校ありますけど、6名です。中学校が5校ありまして、5名です。高校が1校で1名と。だから、14区分でいえばそうなると思いますけど、そこに13人配置してますというのが確認で、長いことかかりましたけど。

これがどう変わるかというのは今後お楽しみと。この点についてまた報告のときにお願いしたいと思います。

もう一点お尋ねしたかったのは、今お話が出ましたように職員として採用されるわけですから、地域との関わり、地域の活性化ということもお話が出ておりましたので、これ教育委員会さんの考え方は大変よく分かります。昔英語、石川遼君ですか、スピードラーニングで。聞くのは一番だと思いますけど、その姿勢は全く同感でございます。ただこれまた大きな宿題だと思いますが、そうやってALTが地域で生活する、じゃあ地域のお話はどうなんだと。教育委員会のお考えは分かります。では、こども園、保護者、小学校保護者、御意見聞かれたかどうか、教えてください。意見交換されましたか。

○畑下総合教育部長 これにつきましては、今後地域の方との関わりもこちらで計画しておる内容でございますので、これからこちらに入ってこられる方、これからの協議の中でいろいろ進めていきたいと思っております。

○立川委員 私お尋ねしたのはこの計画のときに地域の参画であったり、保護者の御意見を聞かれましたかという質問だったので、それに対して今後聞いていきますということは全くなかったという解釈になりますが、そういう解釈でよろしいでしょうか。

○畑下総合教育部長 今後はちゃんと協議してまいります。

○立川委員 昔ありましたけど、何とも言いようがないですけど、本当に教育委員会学習しましょうよ。いろんな面で説明不足。皆さんの意見聞きましょうとおっしゃってるわけですから、こ

ういう大規模といたら失礼ですけど、季節労働者並みの採用するわけですから、さっき御心配がございましたけど、地域とのトラブルも可能性あります。すんなり受け入れてもらおうと思ったら地域にこういうことでやりますんで、応援いただけますかというお話、それから保護者もそうですよね。うちの子は英語習わせたくないという人もいらっしゃるかも分からない。お子さんもそれぞれスタートラインが違いますから、多様性ですから。スタートラインが違うのにいきなり教育委員会はこれやりますよというのはいいことには違いないですけど、御意見聞きましょう、計画の前に。

これをもう今言ってもしょうがないんで、今後何かそういうお話をされるということだったので、それについて具体的な計画はありますか。例えば、今出ました10園、こども園、小学校、それから地域いろいろありますけど、どういったアプローチをされるんでしょうか。もう日にちがないですよ。21日に議決したらもう一週間しかないですよ、正味。10日ありますけど、土日がございますので。採用のほうは忙しいでしょうけど、それって地域にも説明ができるんですか。

小学校や中学校はもう春休みに入っちゃいますよ。その辺とても気になるけど、その辺の計画、今後の今部長おっしゃいましたように説明もしていくということなんで、スケジュールを聞かせていただけたらと思います。

○畑下総合教育部長 先ほど、入ってこられたらすぐということではなくて、こちらのほうでALTたちの研修も行っていくしますので、そういった中でそういう協議も含めてやっていきます。

○立川委員 ALTの教育じゃなくて、ALTはそちらでされたいと思います。タイトでしょうけど、承認が取ればすぐ得意のZoomとかでされるんでしょうけど、面接も。とても呼んでする時間もないでしょうし、Zoomだと思えますけど、それはそれでいいです。ただ、その期間にさっき言いましたこども園の説明とか、保護者、こども園に限らず保護者への説明とか。地域に4月1日からの予定で、実際分かりませんが、4月1日からさっき守井委員もおっしゃってましたが、75人が地域に入るんですよ。地域の皆さん協力してくれますかっていうようなコンセンサスをつくる、そのスケジュールをお尋ねした。

○畑下総合教育部長 そちらにつきましても、教育委員会の中で計画を立ててやっていきたいと思えます。

○藪内委員 立川委員の話に付け足してですが、いろんな場面で説明がないというのがよく聞かれる教育委員会ですが、これIB教育も含めてこのALT、その継続性、これよく説明してみんなにも納得してもらってやっているかどうか、私これ1年や2年でやめるということになると混乱するのは子供たちで、大人はどうにでも考えてたり、取りようでなりますけど、子供は何も知らずに大人を信じて進んでいるわけですから、覚悟といいですか、これをやっていくんだと。いいことならいいことでもっと説明しなきゃいけないし、悪いことでも説明しなきゃいけないし、

その辺の覚悟といいますか、お考えをお聞かせください。

○畑下総合教育部長 こちらのつきましても、子供たちのために両方ともやっていくべきことだと思いますので、計画性を持って今後も続けてやっていくように計画してまいりたいと思っております。

○藪内委員 そのようにお考えであるならばなおのこと、丁寧にじっくりと説明をしていただきたいと思います。

○中西委員長 ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、委員長も発言をしたいと思いますので、委員長職を副委員長に譲りたいと思います。

〔委員長交代〕

○青山副委員長 それでは、委員長の職務を代行します。

○中西委員長 私は、地方財政措置、交付税措置を中心に何点かお伺いをさせていただきたいと思います。

一般質問の答弁の中では外国語指導助手、つまりALTの活用に関する人件費部分だけではなく、経費についても地方財政措置の対象とするという御答弁がありましたけども、どのように解釈すればよろしいでしょうか。

○杉田教育総務課長 それでは、お手元に資料のほうお配りさせていただきます。

○青山副委員長 暫時休憩します。

午前10時26分 休憩

午前10時28分 再開

○青山副委員長 再開します。

○杉田教育総務課長 こちらの資料、地域の国際交流に基づいて招致した外国語指導助手等に係る地方財政措置についてでございます。

真ん中のあたりになりますが、地方財政措置、普通交付税措置（都道府県分、市町村分）の内容を御覧ください。

2番は、令和5年度からの拡充部分になりますが、姉妹校提携など外国自治体等との各種分野における交流に基づいて招致した外国語指導助手等の活用に要する経費（拡充）、対象が外国自治体等、市長部局、教育委員会、姉妹校等との間で提携内容を確認できる書面による協定等に基づいて任用した外国籍と職員であること、交流相手先自治体のあっせんまたは承認を受けて任用した外国籍の職員であること、ALT、CIR、SEAに類する職務も行う者であることとなっています。内容としましては、4月1日時点で任用しており、累計任用年数が5年未満である者等もございます。

ということで、ALTの活用につきましては人件費と併せて経費も対象になっていると把握し

ております。

○中西委員長 資料をありがとうございます。大変大切な私は資料だと思っています。

その上で、私もこの活用に要する費用はどのように算定されるのか、あるいはどこまでその経費について認定されるのか、金額は幾らなのか疑問を持っておりました。

先般、岡山県の国際交流課に確認をしましたところ、岡山県の国際交流課ではこの要する費用、経費について範疇、ある金額については承知をしていないと。つまり中央省庁から御連絡がないので、国際交流課としては全く存じ上げていないという御返事でした。

そこで、国際交流課の人と話をしてみますと、実は備前市の教育委員会から先般お問合せがありましたと。市町村課の財政班になら連絡が行ってる可能性が、中央省庁からある可能性があるもので、そちらのほうと御連絡を取ってくださいというふうに話になったようです。

連絡を取ったところ、市町村課の財政班から備前市の財政課に御連絡があったようです。財政課長とお話をしてみますと、どのくらいの費用、どのくらいの経費の中が認められるのかというお話を聞くことができました。財政課の課長のお話ですと、人件費及び経費についておおむね1人当たり480万円という金額を述べておられました。だから、全ての経費が認められるわけではないわけです。多分、財政班から私どもの財政課に連絡があって教育委員会も御存じだと思います。予算審議のときに、人件費あるいは国際交流部分についてはそのときに予算の内訳についてはお伺いをしようと思っております。

その上でお伺いをするわけですが、ここの最後のところで4月1日時点で任用しており、累計任用年数が5年未満であること、ここんところが少し引っかかってくるわけです。つまり会計年度任用職員として採用されるフィリピンの方は、4月1日の時点で備前市の土の上に立っているんでしょうか。

○畑下総合教育部長 立っているよう準備をしています。

○中西委員長 4月1日時点で備前市のこの大地の上に立っているとすれば、採用試験はいつされるんでしょうか。

○畑下総合教育部長 一応、議決をもらわないとこの予算が決定されないなので、議決決定後に面接等行っていきたいと思っております。

○中西委員長 予算議決をするのは3月21日金曜日ですよ。だから、4月1日までの間でしなければいけない。そうすると、残された日にちは大変タイトな日にちで、なおかつフィリピンからこの備前市の大地の上まで来るまでには何時間か時間がかかるわけです。先方の方もこちらに来るとなればそれなりの準備も必要かと思うが、その点はいかがでしょうか。

○畑下総合教育部長 それにつきましても準備を進めております。

○中西委員長 21日議決をして、4月1日にその採用者、会計年度任用職員がこの大地に立つことはなかなか困難だろうと。つまり、採用試験なんかないに等しいようなものではないかと思うが、それはいかがでしょうか。

○畑下総合教育部長 市の会計年度任用職員につきましては、面接等行って選考試験を行いますので、それは必ず行います。

○中西委員長 21日から4月1日、4月1日のときにはここに立ってるわけですから、つまり3月の末日にはもう試験は終わってるということにならなければならない。現実可能なものとは思えないわけですが、そこで一つお尋ねしておきます。

昨年のALTの採用試験は日本語でされたとお伺いをしております。大変話題になっていたのを私は気になりました。今回も日本語で採用試験をされるのでしょうか。

○畑下総合教育部長 日本語につきましてもできるのを確かめますし、国際教育のほうで教育部グループに英語も日本語もいける者がおりますので、そういう者を対象に行っていきたいと思えます。

○中西委員長 タイトなスケジュールの中で75人を採用するのに日本語がどうか分からない。国際教育課の中でいる職員で対応するとしてもなかなか対応は困難じゃないですか。

○畑下総合教育部長 課の中で協力して行っていきたいと思えます。

○中西委員長 昨年度のALTの採用に関しては、日本語もできる、こちらで生活支援をしなくてもいいALTを採用するんで、経費はかかりませんと、こういう教育委員会の御答弁でした。1年たつと日本語のできないALTもいます。たくさん来られるわけですね。

○畑下総合教育部長 基本的に日本語はできる方をお願いはしているので、全くできないという方ではないとは思えます。

○中西委員長 そうはいっても去年日本語ができて、日本で生活できて生活に支障はないというALTを採用しておられますけども、中には日本語があまり得意ではないんですよと言われる方もおられましたよね。今回は、そういう質はどう担保されるんですか。

○畑下総合教育部長 そういうこともございますので、こちらできちんと面接等を行って、そういう部分については見ていこうと思っております。

○中西委員長 生活支援は必要ではないということですか。

○畑下総合教育部長 生活支援については人数も人数ですので、全く必要がないというわけにはいかないとは思えます。

○中西委員長 その生活支援はどのように行われるのでしょうか。

○畑下総合教育部長 そういう部分は委託をして、業者を決めて行っていこうと思えます。

○中西委員長 その委託部分についても積算の根拠をまた予算決算審査委員会のときにお伺いをしたいと思えます。

今までの総務省の示す4月1日時点で任用しており、なおかつ累計任用年数が5年未満の者であること、つまりフィリピンから新たに来られる方はこの累計任用年数が5年未満であるというところに合致するかと思う。しかし、現在13人雇用している方についてはある意味ではこの累計任用年数、ここのところはクリアするのでしょうか。

○畑下総合教育部長 現在、13名の方はこの措置の対象にはなっておりませんので、今回新たにフィリピンとのこの交流協定の中で来られる方でございます。

○中西委員長 これはまた、予算委員会のときに積算の根拠の中でお伺いをさせていただきたいと思えます。

このALTの方については、例えば片上小学校に配置される方は片上地区にお住まいになる、三石小学校の方は三石地区にお住まいなる、この4月1日時点でその方のお住まいは確保できてるのでしょうか。

○畑下総合教育部長 これにつきましても、協力してこちらのほうへ、なるべくその地区へお願い、お願いというか、それで準備は協力してやっているんですが、住むところがなかなかない地区とかもございますので、難しい地区もございますが、なるべくその学校区内で住んでいただく準備はしております。

○中西委員長 どこがそんな準備をしてるのでしょうか。私は、教育委員会の皆さんお忙しい、あるいはその年度末で到底そういうことはできてないんじゃないかと。この3月いっぱいにはそれをしてなければ、備前市に大きな旅行かばんを持って立つことはできませんし、毎日それこそテントで暮らすのか、お住まいのことはそうだとすれば責任を持って確保しなければいけない。誰がどのような準備をこの3月の時点でしておられるのでしょうか。

○畑下総合教育部長 現在、包括連携協定を結んでいる先がありますので、そちらと協力してお願いをしてやっています。

○中西委員長 その会社は何という会社ですか。

○畑下総合教育部長 アチーブゴールさんです。

○中西委員長 その包括連携協定を結んで、しかしアチーブゴールさんが動いてるわけですけども、その報酬は3月では支払いがされませんよね。4月以降の予算議決を経てからのものなるわけですけど、そこはどのようにお考えになっておられますか。

○畑下総合教育部長 コルドバ町からあっせんされた業者がこちらになりますので、そちらについてもその町からあっせんされる、そういうALTのことにつきましては協力してやっていただけるということでお願いをしております。

○中西委員長 アチーブゴールはフィリピンに自前の学校を経営しておられると。この間、教育委員会はコルドバ町にある語学学校とか、周辺にある公立の大学から来るということをおっしゃっておられましたけど、これは主にどこの学校からフィリピンの方はお見えになられるのでしょうか。

○畑下総合教育部長 アチーブさんも学校は持たれてますので、そういうところから、どこの学校というわけではないですけど、こちらのほうの条件に、先ほど日本語で話ができるとか、教員免許を持っておられるとか、そういう条件の下でそういう方をあっせんしていただいております。

○中西委員長 つまり、あっせん業者が経営する学校からALTが送られてくるということになるんですか。その方を採用するということになるんですか。これは二重取りじゃないですか。

○畑下総合教育部長 あくまでも紹介をしていただいただけなので、こちらとしてはその国からこちらの業者を通じて紹介していただいた方をこちらで面接して、よければ採用していくという形になります。

○中西委員長 しかし、先ほどからお話がありましたように、生活には多少の難があるので、生活指導を行うと。それはアチーブゴールさんをお願いをすると、委託料ですということでしたから、アチーブゴールからのあっせんを受けて、なおかつ生活の面倒を見る、つまり二重取りじゃないかということを指摘したけども、それはいかがですか。

○畑下総合教育部長 委託につきましては、まだこれからプロポーザルをかけようと思っております。

○中西委員長 包括連携協定を結んでるんですから、多分アチーブゴールになるという私は大前提の話だと思います。その結果はまた楽しみにしておきますけども、もう結論が出てる話ではないかと思います。

○青山副委員長 委員長を委員長にお返しします。

〔委員長交代〕

○中西委員長 審議中途ですが、暫時休憩いたします。

午前10時46分 休憩

午前10時55分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

ALTについてはもうありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それ以外の議題で皆さんから何かありましたら。

○青山副委員長 香登こども園の移設についてですけど、1月26日にも意見交換会をされたということですけど、進捗状況と今後どのようなロードマップ、計画されとんか教えてください。

○文田幼児教育課長 前回、2月の厚生文教委員会でも御報告いたしましたとおり、1月26日に検討会議を開催いたしました。年度内にもう一度ということで、今月末にもう一度開催の予定をしております。ただ、進捗状況といたしまして今後のロードマップというか、予定ですけども、今のところ何も決定しているものでもないですし、検討会で地域の方の御意見なども拾えたらいいかなと思っています。継続して進めていかなければならないかなとは思っております。

○青山副委員長 一度白紙に戻ったものをこれからまたいろんな意見を聞きながら組み立てていくということですけど、時間のかかることだと思います。

先ほど来ありますように、予算をつける、議案に上る前に委員会とかにも早めにお知らせしていただける体制でお願いしたいと思うが、いかがでしょうか。

○**文田幼児教育課長** 今回の当初予算で幼保一体型施設の予算200万円の委託料を上げさせていただいております。それにつきまして、予算決算審査委員会で審議していただいたらよろしいかと思うんですけれども、今年度調査委託料として5年度からの繰越しのものがあつたと思うんですけれども、このたび新年度になりましたらそちらもなくなりますので、継続して審査していくための資料をつくったりとか、そういったもののための予算として上げさせていただいておりますので、また予算決算で御審議いただけたらと思っております。

○**青山副委員長** 100万円がそれに当たるということで、今後も継続するという形を取られるということによろしいですね。

○**立川委員** 以前の計画は白紙に戻つたというお話だったが、そういう認識でよろしいですか。

○**文田幼児教育課長** 地域の説明会や検討会議でも説明させていただいておるんですけれども、小学校の校庭への建設だったりとか、そういったところについては今のところもう検討から外しているというところがございます。

○**立川委員** 前案については一応白紙、検討から外すと。新しい提案をしていく方向という確認でよろしいでしょうか。

○**文田幼児教育課長** 以前より委員からも御意見ありましたように複数案をという御意見をいただいておりますので、そういったところで提案させていただいて、御協議いただけたらと考えております。

○**中西委員長** この問題についてはほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次にお伺いしたいことがあれば。

○**青山副委員長** 先日、子供たちの運動時間についての報告があつたけど、小学校でいうと休日、中学校でいうと平日あるいは休日、全国平均と比べてかなり低いという結果で驚いたけど、この年代については生涯の運動やスポーツに関わる入り口ということで、学校では体育の面でしっかり指導されてると思うけど、あれが体育以外ということだったんで、今後の取組について何かありましたらお願いしたいと思う。

○**谷口小中一貫教育課長** 今各校でも分析と、今後の対応を考えておる最中でございます。授業での運動量の確保、それから生涯スポーツの観点を持った教科指導に併せまして、学校活動、それがさらにそれぞれのおうちに帰っての生活習慣にも結びつくものが考えていけたらと思っております。

○**青山副委員長** 特に学校の授業終わってから放課後とか、週末の休みの関わり方だと思うけど、最近をよく分かりませんが、以前は家へ帰って外遊びじゃなくて家の中でゲームをするという時間が増えて、それが一つの原因で運動不足あるいは運動離れがあるということをお聞きしました。

私もサッカーの指導をして、オランダに指導の勉強に行かせていただいたときに、オランダ

はサッカーでもかなり実績のある、あるいは多くの人が関わっているスポーツですけど、そこでも小さい頃の外遊びがないんで、それを誘導するのにサッカー協会が仕掛けて遊び的な、ゲーム的な内容、ストラックアウトのようなこととか、ジグザグドリブルをして時間を計っているいろんな種目を点数化して、それによって何か景品がもらえたりするようなことをやって、わざわざ子供たちを外遊びに引き出せることをしてるということも見てきました。何かそういう仕掛けが要るかなと思いますので、その辺も含めて考えていただけたらと思います。いかがでしょうか。

○谷口小中一貫教育課長 地域のイベントの企画運営が我々もなかなか踏み込めないところもあるんですけど、そういう地域のスポーツ行事等にも参加しやすい連携は模索していく必要があるのかなということを改めて思いました。

○青山副委員長 スポーツの部分については文化スポーツ部ということで教育委員会から離れたけど、ぜひそことも連携を取ってやっていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○立川委員 文化スポーツ部の地域移行課が部活動の地域移行を担っておられると思いますが、その辺小中一貫、学校側との関わりがもう一つ明白に見えないですけど、これからそっちに任すよ、ここは学校教育の一環よ、もう部活の場合時間外といいましょうか、放課後という言い方がいいか分かりませんが、そこからは知らないよというふうな関わり先、連携というお話があったけど、その辺についてどういう見解なんか、教えていただけますか。

○谷口小中一貫教育課長 学校での今の子供たちのニーズであったり、それから活動の様子といったものは随時我々も、必要に応じて校長会ともタイアップしながら地域移行課とも協議をしておるところでございます。実際に地域の団体とかとの折衝は地域移行課が中心となって行っているんですけど、その中で子供たちの実態とかニーズ、願いといったものとうまいこと折り合いをつけながら進めていくというところは今後も引き続き関わっていきたいと思っております。

○立川委員 情報交換会といいましょうか、情報協議というんでしょうか、そういったのは定期的には持たれる予定はあるんでしょうか。それとも、ニーズが出たときだけ。

○谷口小中一貫教育課長 現在、定期的にというところは行っておりませんが、もうその都度必要に応じて同じ5階のフロアにおりますので、担当同士で話をしたり、我々課長同士で話をしたりということをしてしながら情報交換したり、相談したり日常的に行えるように努めております。

○立川委員 そういった意味では階が同一階になって、素早い情報交換していただけたらいいですけど、特有のここはあんとところやで、ここはうち知らんでということだけないようにしっかり連携をお願いしときたいと思います。

○中西委員長 ほかにはございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、以上で所管事務調査を終わりたいと思います。

以上で厚生文教委員会を閉会いたします。

午前11時08分 閉会